

2022 年度に実施したプロジェクト評価結果のまとめ

2022 年度に実施した、プロジェクト中間評価全 15 件及びプロジェクト事後評価 16 件、全 31 件について、評点はそれぞれ以下の通り。

下線の案件については、今回の第 73 回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

1. 中間評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／④次世代火力発電基盤技術開発 8) CO <sub>2</sub> 分離・回収型ポリジェネレーションシステム技術開発	環境部	2.7	2.5	2.3	2.0
2	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／⑥次世代火力推進事業・共通基盤技術開発、⑨CO <sub>2</sub> 排出削減・有効利用実用化技術開発	環境部	2.9	2.4	2.4	1.6
3	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／⑧CO <sub>2</sub> 有効利用拠点における技術開発	環境部	3.0	2.5	2.2	1.7
4	炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー関連技術開発	材・ナノ部	2.8	2.5	2.3	2.2
5	次世代複合材創製・成形技術開発①②③	材・ナノ部	2.9	2.1	2.4	2.1
6	太陽光発電主力電源化推進技術開発	新エネ部	2.9	2.4	2.5	2.3
7	人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業	ロボ・AI部	3.0	2.9	3.0	2.6
8	カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発	材・ナノ部	3.0	2.4	2.1	2.0

9	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／⑫CO <sub>2</sub> 分離・回収技術開発	環境部	2.9	2.0	2.6	2.1
10	革新的プラスチック資源循環プロセス技術開発	環境部	3.0	2.8	3.0	2.8
11	IoT 社会実現のための革新的センシング技術開発	材・ナノ部	2.9	2.3	2.9	1.9
12	海洋生分解性プラスチックの社会実装に向けた技術開発事業	材・ナノ部	3.0	2.4	3.0	2.0
13	革新的ロボット研究開発基盤構築事業	ロボ・AI部	2.4	2.0	2.1	1.7
14	<u>燃料電池等利用の飛躍的拡大に向けた共通課題解決型産学官連携研究開発事業</u>	スマ・エネ部	3.0	2.9	2.6	2.1
15	<u>バイオジェット燃料生産技術開発事業</u>	新エネ部	2.9	2.4	2.1	1.9

注：下線の2件については、今回の第73回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

## 2. 事後評価結果のまとめ

	事業名	担当部	意義	運営	成果	実用化
1	超低消費電力型光エレクトロニクス実装システム技術開発	IoT 部	3.0	2.7	2.9	2.9
2	※先進・革新蓄電池材料評価技術開発（第2期）	スマ・エネ部	3.0	3.0	2.6	2.6
3	超先端材料超高速開発基盤技術プロジェクト	材・ナノ部	3.0	2.6	2.6	2.4
4	炭素循環型セメント製造プロセス技術開発	環境部	2.9	2.3	2.9	2.1
5	海洋エネルギー発電実証等研究開発事業	新エネ部	3.0	2.5	2.0	2.2
6	再生可能エネルギーの大量導入に向けた次世代電力ネットワーク安定化技術開発／①-2、②-1、②-2	スマ・エネ部	3.0	2.3	2.5	2.0
7	Connected Industries 推進のための協調領域データ共有・AI システム開発促進事業	IoT 部	2.9	2.7	2.4	2.3
8	カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／④次世代火力発電基盤技術開発 3) ガスタービン燃料電池複合発電技術開発 4) 燃料電池石炭ガス適用性研究	環境部	2.9	2.6	3.0	2.0
9	部素材の代替・使用量削減に資する技術開発・実証事業	材・ナノ部	3.0	2.0	3.0	2.4
10	安全安心なドローン基盤技術開発	ロボ・AI 部	3.0	2.8	2.8	2.6
11	次世代自動車向け高効率モーター用磁性材料技術開発	材・ナノ部	3.0	2.7	2.6	2.1
12	二酸化炭素原料化基幹化学品製造プロセス技術開発	材・ナノ部	3.0	3.0	3.0	2.9
13	環境調和型プロセス技術の開発／①水素還元等プロセス技術の開発（フェーズⅡ－STEP 1）	環境部	2.9	2.4	2.7	2.6

14	<u>「ゼロカーボン・スチール」の実現に向けた技術開発</u>	環境部	2.9	2.3	2.4	2.4
15	<u>カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／⑦次世代技術の早期実用化に向けた信頼性向上技術開発</u>	環境部	2.8	2.3	3.0	2.3
16	<u>有機ケイ素機能性化学品製造プロセス技術開発</u>	材・ナ ノ部	3.0	2.7	3.0	2.4

注：下線の6件については、今回の第73回研究評価委員会での審議を経て、確定する。

※：前倒し事後評価

## 第4期中長期計画における評価指標について

(参考)

### ○第4期 事後評価結果

70%以上 (マネジメント、成果 $\geq$ 2点 (3点満点))

50%以上 (実用化  $\geq$ 2点 (3点満点))

## 第4期中長期計画 抜粋

### I. 研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項

第4期中長期目標期間においては、研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上のため、以下のとおり、1. から4. の業務項目毎に取組を行うものとする。

また、機構の業務活動単位を①エネルギーシステム分野、②省エネルギー・環境分野、③産業技術分野、④新産業創出・シーズ発掘等分野とし、これらの分類ごとに組織上の責任者を配置して業務を実施する。(中略)

### 1. 技術開発マネジメント等による研究成果の社会実装の推進

#### (1) 世界最先端の研究開発プロジェクトの実施と成果の最大化

##### ○数値目標 1. - 1

##### 【目標】「基幹目標」

(中略) 事業終了後、5年が経過していないナショナルプロジェクト(非連続ナショナルプロジェクトを除く。)については、事業終了後に実施する外部評価委員会による事後評価における「成果の実用化・事業化に向けた取組及び見通し」の評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分となる比率を第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも50%以上(平成23年度以前に終了したナショナルプロジェクト243件の実績は41%)とすることを目標として、成果の実用化に向けたマネジメントに、より一層取り組むものとし、当該比率を基に実用化達成率の将来予測を行うものとする。

#### (2) 技術開発マネジメントの機能強化

##### ○数値目標 1. - 2

##### 【目標】

(中略) 第4期は、マネジメント結果を直接的に測定できる「研究開発マネジメント」及び「研究開発成果」の評価項目に特化することとし、同評価項目の4段階評点が最上位又は上位の区分の評価を得る比率について、第4期中長期目標期間全体で該当する評価単位のそれぞれにおいて、いずれも70%以上(平成28年度までに事後評価を完了したナショナルプロジェクト358件の実績値は68%)とすることを目標とし、その達成状況を評価する。